



# 2026年3月期決算 IR説明会資料

2026年5月

株式会社 極 洋

(東証プライム市場 証券コード 1301)

# 目次

1. 2026年3月期 総括	P3～6
2. 2027年3月期の連結業績予想	P7～10
3. 2026年3月期の実績	P11～17
4. セグメントの状況	P18～28
5. 株主還元	P29～30
ご参考資料	P31～38

# 1. 2026年3月期 総括

# 2026年3月期 ハイライト

**売上高**  
**3,346億円**

前期比 319億円増  
(+10.5%)

**営業利益**  
**107億円**

前期比 3億円減  
(△3.1%)

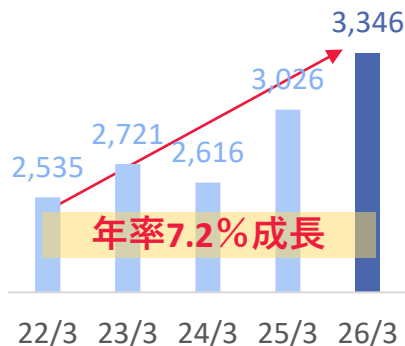
**経常利益**  
**100億円**

前期比 8億円減  
(△7.6%)

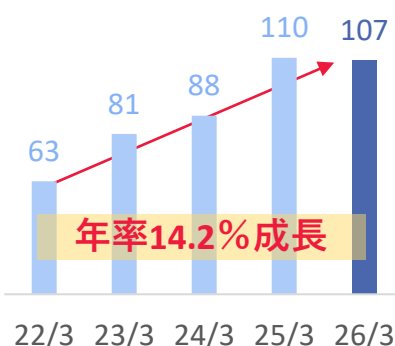
親会社株主に帰属する  
**当期純利益**  
**68億円**

前期比 1億円増  
(+1.5%)

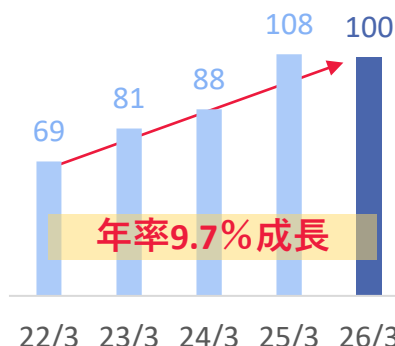
2期連続過去最高値更新



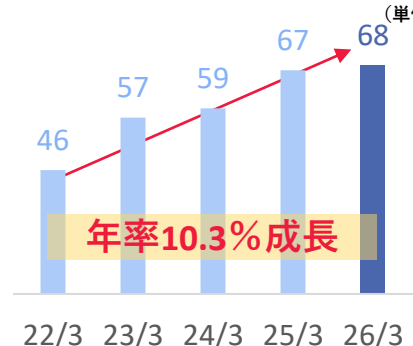
4期連続過去最高益更新



4期連続過去最高益更新



4期連続過去最高益更新



## ポイント

- 売上高、当期純利益は過去最高値を更新
- 営業利益、経常利益は100億円超を継続
- 高収益化が進み、直近5期で営業利益は年率14.2%と、売上高成長の約2倍のスピードで成長

# 中期経営計画 重点戦略の進捗

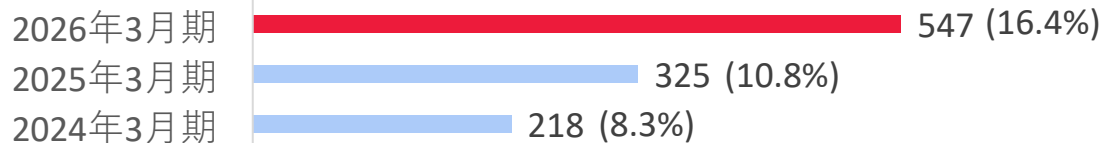
視座 **グローバル化**

事業基盤の拡充 **海外事業の拡大**

**中期経営計画目標 2027年3月期 海外売上高比率 15%以上（600億円）**

海外売上高（海外売上高比率）

単位：億円



➤ **水産加工品の北欧販売網を有するデンマーク企業を買収【25年9月】**

北欧に生産・販売拠点がある水産加工・販売会社Engelsviken Canning Denmark A/Sを買収。オランダの子会社を中心に拡張してきた西欧、南欧向け販売に加えて、北欧向けの販売を強化。 \* 連結子会社



北欧のスーパーで販売されているECD社のエビ製品と缶詰

➤ **輸出事業の組織改編【25年10月】**

**従来、海外事業部が担っていた輸出販売業務を各商材の国内販売担当各部署へ移管**

国内・海外向けの買付・在庫管理を一本化することで、調達力及び供給力を強化。

# 中期経営計画 重点戦略の進捗

## 視座 4つの事業

### 事業基盤の拡充

#### ➤ ねり節専用工場の竣工【25年4月】

目的：事業収益性向上、資源の有効活用の取り組み強化



ねり節工場



ねり節

### 事業基盤の拡充 高収益を確保できる付加価値性の高い商品づくり

#### ➤ 2026年春の新商品発表【26年2月】

調理負担や人手不足といった課題解決に向けて、魚のおいしさと栄養を手軽に届ける商品の開発を強化。



### ステークホルダーとのパートナーシップの強化 消費者との信頼関係構築

目的：企業ブランドの強化

#### ➤ 社員が出演する企業CM第2弾の放映開始【26年4月】

#### ➤ オリジナルキャラクター「だんどり～にゃ」を起用した企業CMを放映【25年10月～26年4月】



新企業CM

## 視座 人材・組織

### ステークホルダーとのパートナーシップの強化 従業員が働きやすい職場環境

#### ➤ 就業時間中は禁煙に【25年10月】

社員の健康を守り、さらなる働きやすい職場環境づくりによる従業員エンゲージメント向上を図る。

#### ➤ 組合員平均月額14,000円アップ、初任給は315,500円に引き上げ【26年4月】

モチベーション向上と生活の安定化を図ることで、働きやすい環境づくりを進める。

## 2. 2027年3月期の連結業績予想

# 連結業績予想と中計目標値

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	2027年3月期 連結業績予想	中期経営計画 目標値 (2027年3月期)
売上高	2,616億円	3,026億円	3,346億円	3,650億円	4,000億円
営業利益	88億円	110億円	107億円	120億円	135億円
経常利益	88億円	108億円	100億円	110億円	135億円

# 設備投資計画

	概要	2027年3月期 計画
極洋	生産工場関連 研究所関連 養殖事業海上 IT関連その他	5億円 1億円 1億円 5億円
	計	12億円
関係会社	生産工場関連 まき網事業関連 養殖事業海上 IT関連その他	25億円 2億円 0億円 2億円
	計	29億円
合計		41億円

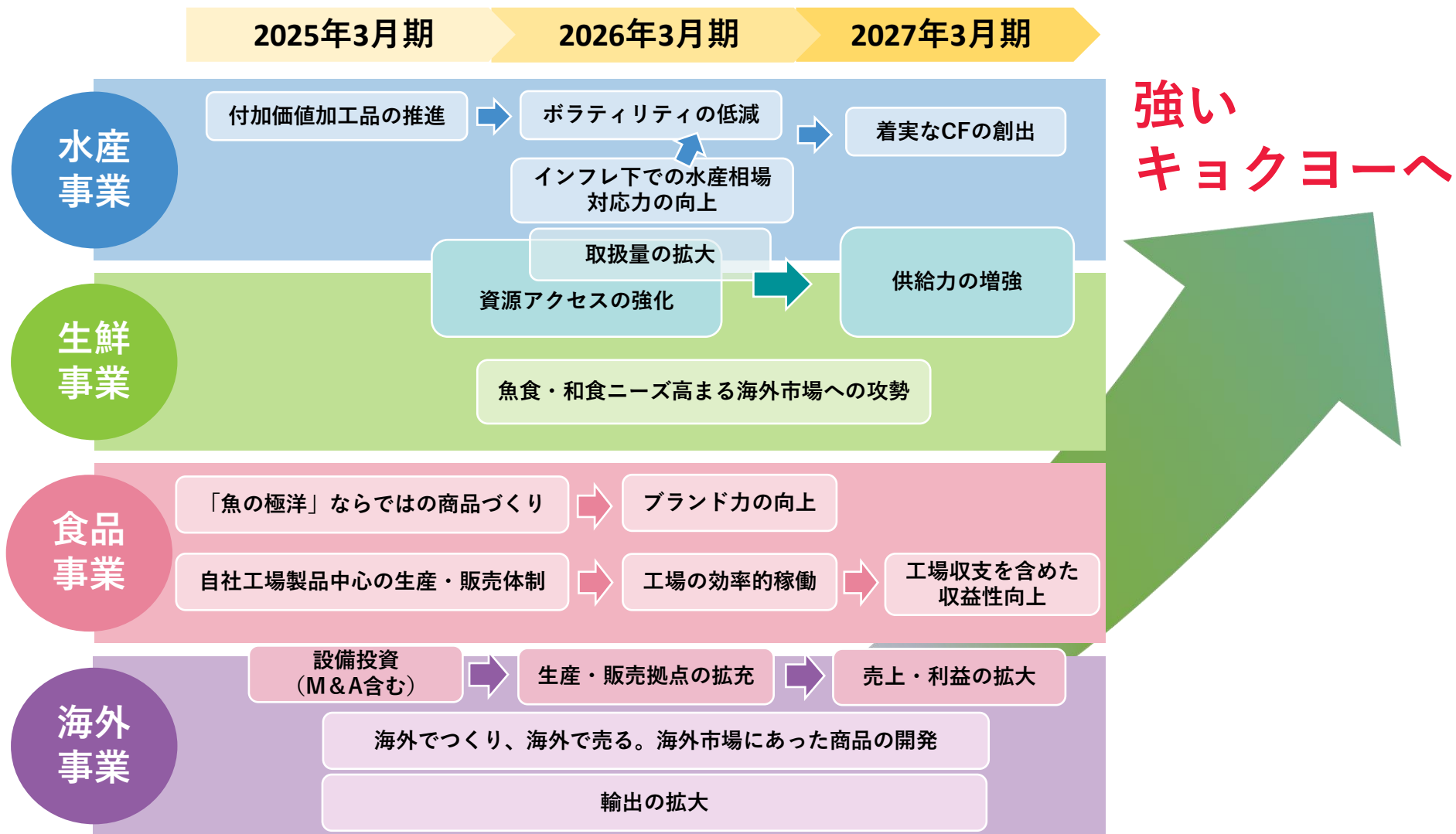
## 主な投資案件

DX推進  
システム導入等 4億円

国内：工場新設（残渣を活用した商品の生産工場）  
既存工場の設備導入・改修等  
海外：工場の生産性向上・効率化

※海外M&A案件は含みません

# 中計目標値までのロードマップ



## 3. 2026年3月期の実績

# 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2025年 3月期	2026年 3月期	前期比		2026年 3月期 通期予想 (※)	通期 予想比
			増減額	増減比率		
売上高	302,681	334,612	31,931	10.5%	330,000	101.4%
営業利益	11,079	10,731	△347	△3.1%	11,100	97.6%
経常利益	10,857	10,031	△826	△7.6%	10,300	97.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,740	6,841	101	1.5%	6,700	102.1%

(※) 2026年2月6日に東証開示した「業績予想の修正に関するお知らせ」による通期予想

- ・ 売上高は、水産事業での国内販売の伸長などにより通期予想達成
- ・ 営業利益・経常利益は、原材料価格等生産コストの増加や海外事業の伸び悩みにより通期予想に至らず

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2025年3月末	2026年3月末	前期比		2025年3月末	2026年3月末	前期比
資産の部				負債の部			
<b>流動資産</b>	<b>134,260</b>	<b>156,706</b>	<b>22,445</b>	<b>流動負債</b>	<b>74,995</b>	<b>98,822</b>	<b>23,826</b>
受取手形 及び売掛金	36,935	39,212	2,277	内、支払手形 及び買掛金	10,004	14,496	4,491
				内、短期借入金 (含むCP)	43,770	61,172	17,402
商品及び製品	58,052	64,465	6,412	<b>固定負債</b>	<b>38,774</b>	<b>36,438</b>	<b>△2,336</b>
仕掛品	5,189	5,966	776	内、長期借入金	35,604	30,440	△5,163
原材料及び貯蔵品	12,115	18,980	6,864	<b>負債合計</b>	<b>113,769</b>	<b>135,260</b>	<b>21,490</b>
その他	14,463	17,044	2,580	純資産の部			
<b>固定資産</b>	<b>47,865</b>	<b>57,422</b>	<b>9,557</b>	<b>株主資本</b>	<b>57,902</b>	<b>63,189</b>	<b>5,286</b>
有形固定資産	28,588	28,950	361	その他の 包括利益累計額	8,613	14,147	5,534
無形固定資産	1,965	1,905	△60	非支配株主持分	1,840	1,531	△309
投資その他の資産	17,310	26,567	9,256	<b>純資産合計</b>	<b>68,355</b>	<b>78,868</b>	<b>10,512</b>
<b>資産合計</b>	<b>182,125</b>	<b>214,128</b>	<b>32,002</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>182,125</b>	<b>214,128</b>	<b>32,002</b>

- 原材料や商品等の棚卸資産が増えたことを主因に資産合計は増加
- 在庫等運転資本の増加に伴い短期借入金など流動負債は増加
- 当期純利益からの株主資本の積み上がりなどにより純資産合計は788億円まで増加

# 連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

		2025年3月期	2026年3月期	前期比
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前当期純利益	10,848	10,040	△807
	減価償却費	2,624	3,034	409
	売上債権の増減 (△は増加)	△527	△1,368	△841
	棚卸資産の増減 (△は増加)	△2,710	△12,562	△9,852
	仕入債務の増減 (△は減少)	101	3,153	3,051
	その他	△4,494	△3,043	1,451
	<b>小計</b>	<b>5,843</b>	<b>△745</b>	<b>△6,588</b>
投資活動による キャッシュ・フロー	固定資産の取得	△6,158	△3,234	2,924
	その他	△2,877	△1,981	895
	<b>小計</b>	<b>△9,036</b>	<b>△5,216</b>	<b>3,819</b>
財務活動による キャッシュ・フロー	短期借入金 (含むCP) の増減 (△は減少)	△4,890	13,801	18,691
	長期借入れの増減 (△は減少)	8,372	△2,953	△11,326
	その他	△1,332	△1,767	△435
	<b>小計</b>	<b>2,149</b>	<b>9,079</b>	<b>6,930</b>

- 棚卸資産の増加を主因に営業キャッシュ・フローはマイナス
- 短期借入金 (含むCP) でキャッシュフロー不足を賄い財務キャッシュ・フローはプラス

# 連結財務関係指標

## 連結財務指標の推移

	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期	前期比
自己資本 (百万円)	42,705	47,541	58,976	66,515	77,366	10,851
有利子負債 (百万円)	58,121	68,973	74,625	80,746	92,992	15,626
総資産 (百万円)	130,460	146,301	160,720	182,125	214,128	32,002
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	6,539	7,042	8,452	7,514	11,047	3,533
自己資本比率	32.7%	32.5%	36.7%	36.5%	36.1%	△0.4ポイント
D/Eレシオ	1.4倍	1.5倍	1.3倍	1.2倍	1.2倍	同ポイント
ROE	11.2%	12.8%	11.1%	10.7%	9.5%	△1.2ポイント
ROA	5.6%	5.9%	5.8%	6.3%	5.1%	△1.2ポイント

ROE：「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本\*」、ROA：「経常利益÷総資産\*」 \*当期末と前期末の平均値

D/Eレシオ：「有利子負債÷自己資本」

- 利益額の伸び悩みによりROEやROAは前期比で低下したものの、自己資本は着実に積み上がっており、自己資本比率36%台、D/Eレシオ1.2倍と、安定的な財務基盤を維持しながら事業規模の拡大が進展

# 設備投資実績

	概要	2026年3月期 期末実績
極洋	生産工場関連	2億円
	研究所関連 養殖事業海上 I T 関連その他	0億円 1億円 3億円
	計	6億円
関係会社	生産工場関連	20億円
	まき網事業関連	1億円
	養殖事業海上	1億円
	I T 関連その他	1億円
	計	24億円
	合計	30億円

## 主な投資案件

DX推進  
システム導入等 2億円

- ・ 北米のカニかま製造会社「Ocean's Kitchen」5億円
- ・ 工場設備の改修等12億円

# 減価償却費実績

(単位：百万円)

	24年3月期 (実績)	25年3月期 (実績)	26年3月期 (実績)
減価償却費	2,427	2,624	3,034

## 4. セグメントの状況

# セグメントの状況

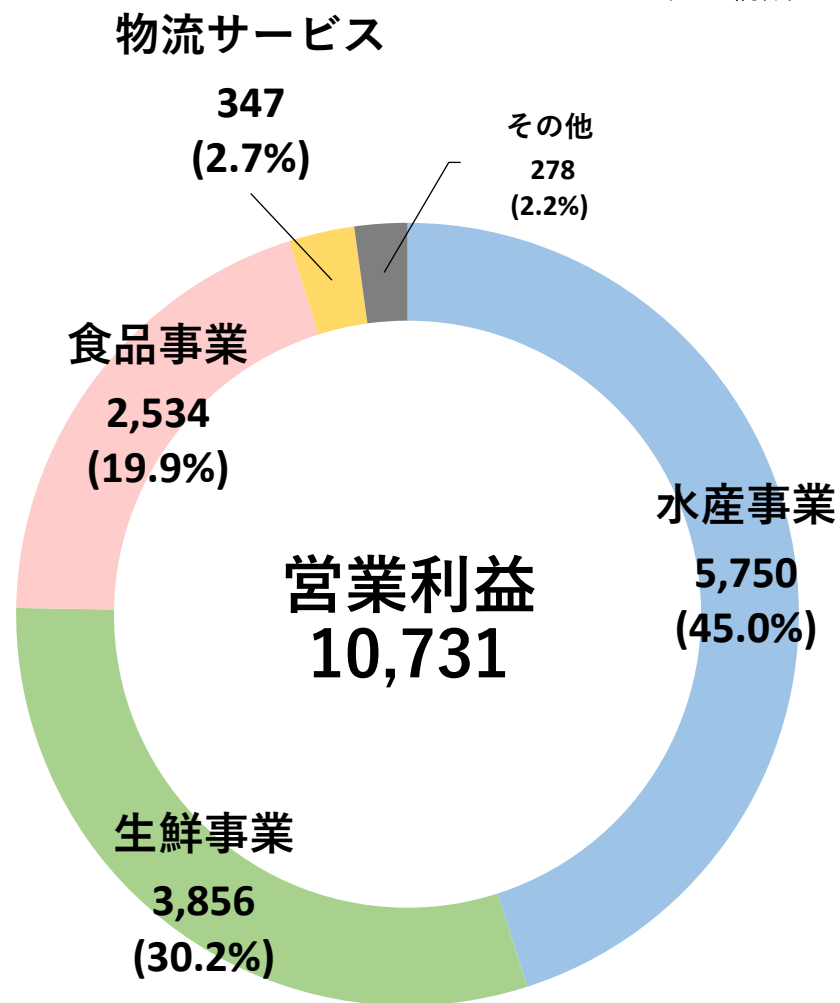
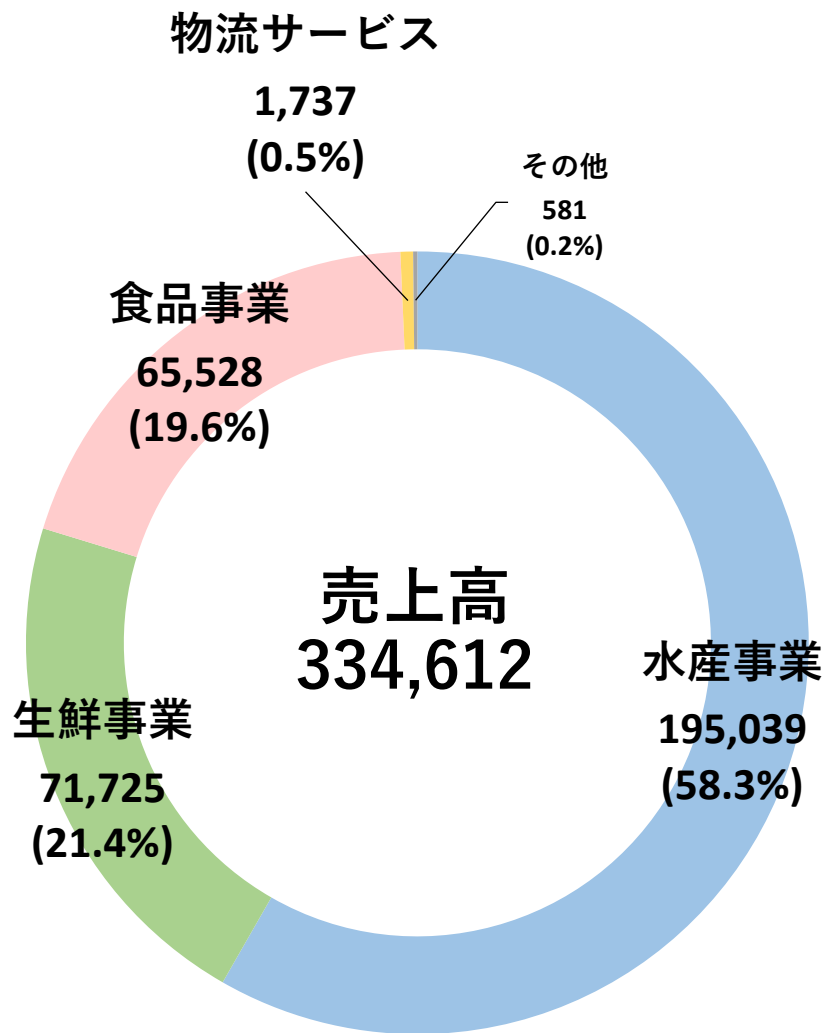
## セグメント別売上高・利益

(単位：百万円)

	売上高			セグメント利益		
	25年3月期	26年3月期	前期比	25年3月期	26年3月期	前期比
水産	168,668	195,039	26,371	6,109	5,750	△359
生鮮	65,850	71,725	5,875	3,615	3,856	241
食品	65,940	65,528	△412	2,446	2,534	87
物流 サービス	1,667	1,737	70	294	347	52
その他	554	581	27	△1,386	△1,756	△370
合 計	302,681	334,612	31,931	11,079	10,731	△348

# セグメントの状況

単位：百万円  
カッコ内は構成比

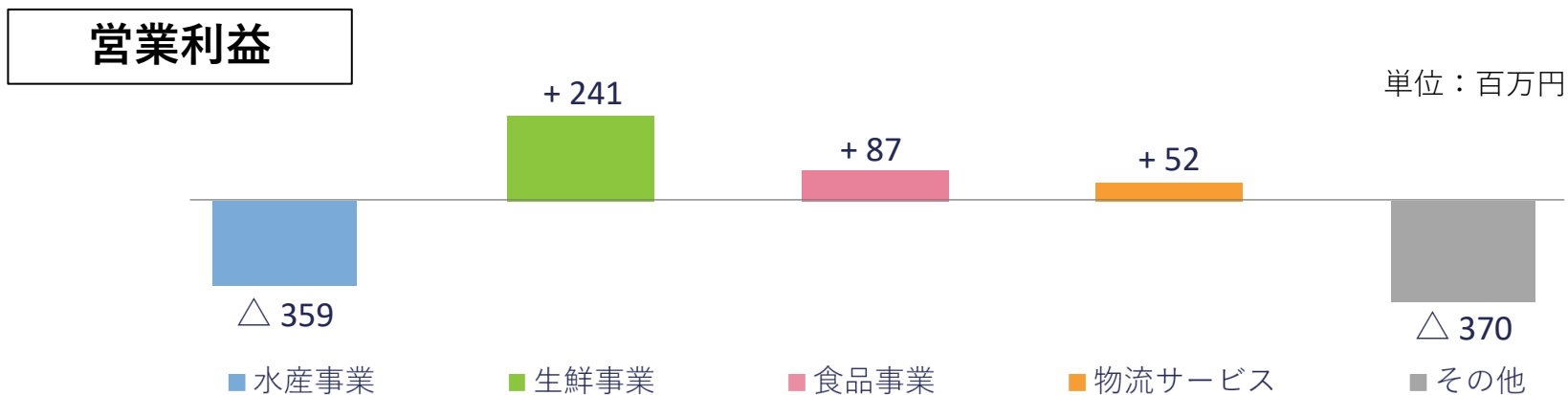
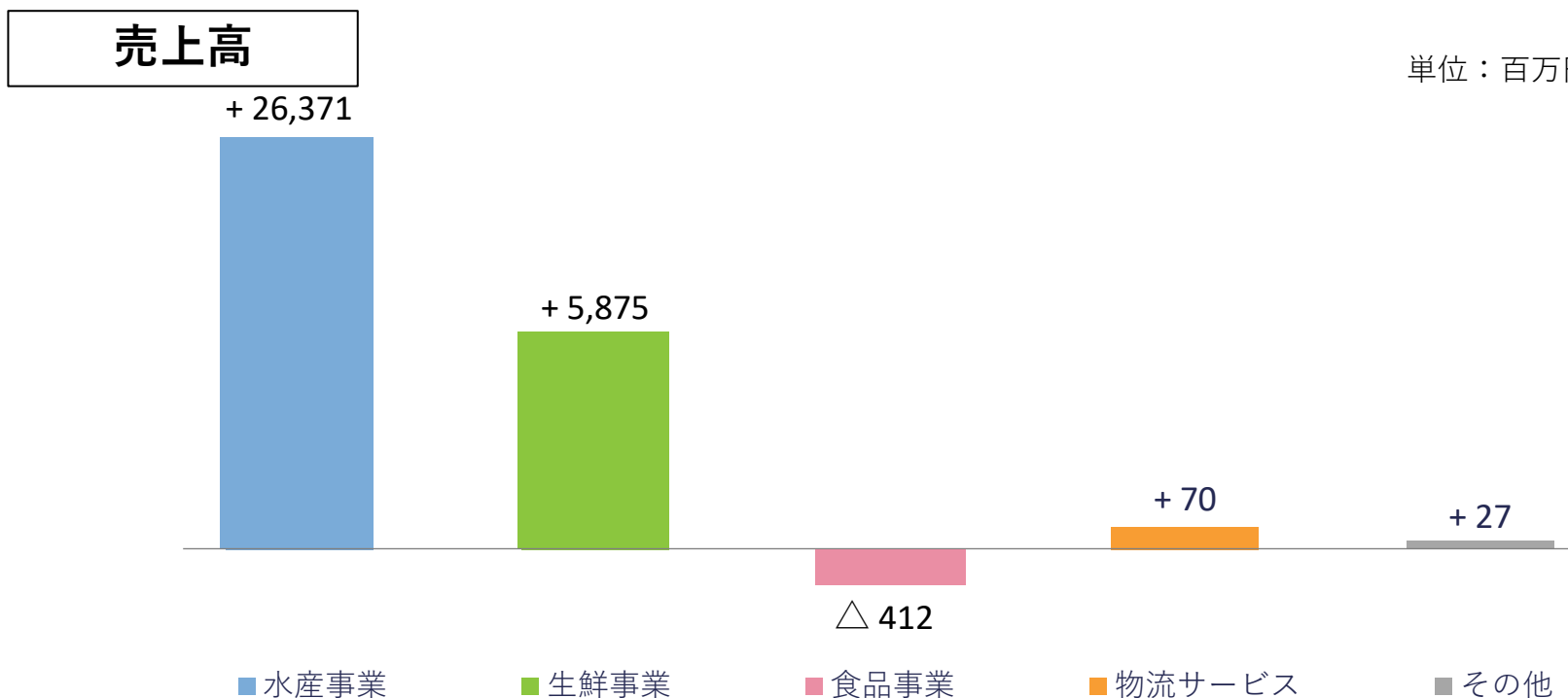


※調整額 △2,035百万円を除く。  
調整額を差し引く前のセグメント利益合計は12,767百万円。

# セグメントの状況

## 売上高・営業利益のセグメント別増減

単位：百万円



# セグメントの状況

## 水産事業

《増収減益》

(国内販売)

- 物価上昇による消費マインドの低下により、サケなどの販売量は減少するものの、他の魚種の拡販に注力

**サケ・エビ**：主力魚種 伸び悩む

**魚卵・カニ**：高額商材 年末商戦などで販売が増加

**ホタテ**：底堅い需要が継続し堅調に推移

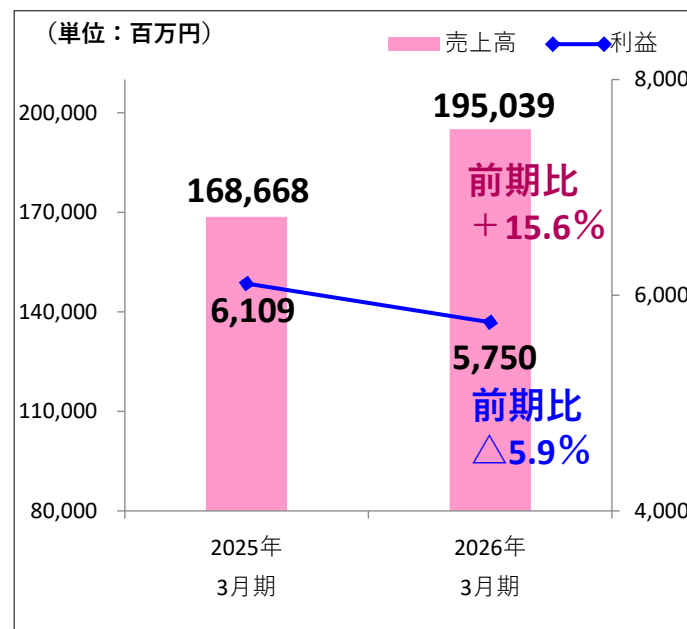
**サバ**：販売量は減少したものの、市況上昇により加工品を中心に売上は伸長

**北洋魚**：拡販に努め、シマホッケ、スケソウダラ加工品など売上・利益に寄与

(海外事業)

- 輸出は、ホタテ製品、サバ、イワシなどの販売が伸長
- 海外現地事業は、事業規模が拡大するも、利益は計画を下回る

※「ご参考資料」に「魚種別売上金額・単価推移」を記載しております。  
 ※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。



	売上高	利益
国内販売	↑	↑
海外事業	↑	↓

# セグメントの状況

## 生鮮事業

《増収増益》

(鯉鮪販売)

- 冷凍クロマグロ、キハダマグロ、インドマグロ、加工品を中心に伸長し、売上・利益が拡大

(海外まき網事業)

- 上期は苦戦したものの、通期では、市況の上昇と漁獲量の回復により売上は増加したものの、利益は減少

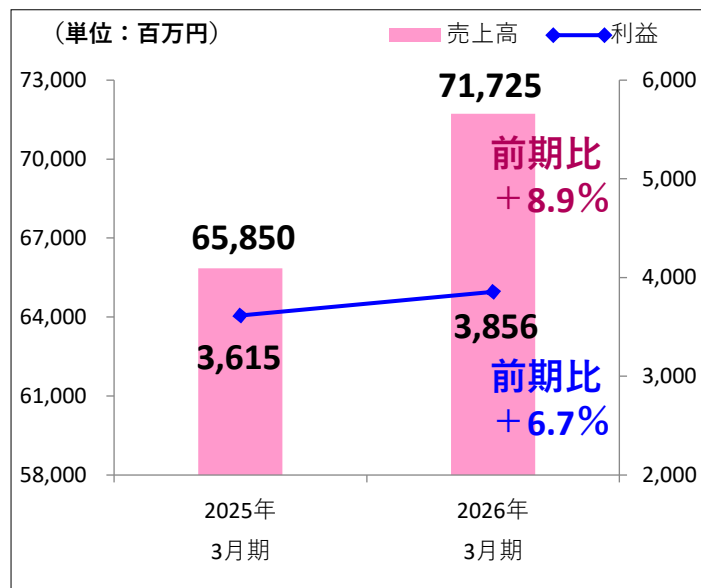
(養殖事業)

- 自社グループで生産している国産養殖マグロの品質的の優位性を活かし、販売の拡大に注力

(生食事業)

- 回転すし向けの販売の増加に加え、量販店向けの拡販を図り、売上・利益とも増加

※「ご参考資料」に「クロマグロ養殖事業 売上重量・金額」および「海外まき網事業 水揚げ重量・魚価」を記載しております。  
 ※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。



	売上高	利益
鯉鮪販売	↑	↑
海外まき網事業	↑	↓
養殖事業	↓	↑
生食事業 (寿司種中心)	↑	↑

# セグメントの状況

## 食品事業

《減収増益》

(業務用冷凍食品)

- 骨なし切り身などは、安価な海外商品との競争激化や原料高による値上げにより売上・利益とも減少。一方、カニ風味かまぼこやフライ商品の販売量増加により、全体の売上・利益は前期並み

(市販用冷凍食品)

- 水産原料価格の上昇、生産コストや販売費の増加により、売上・利益とも減少

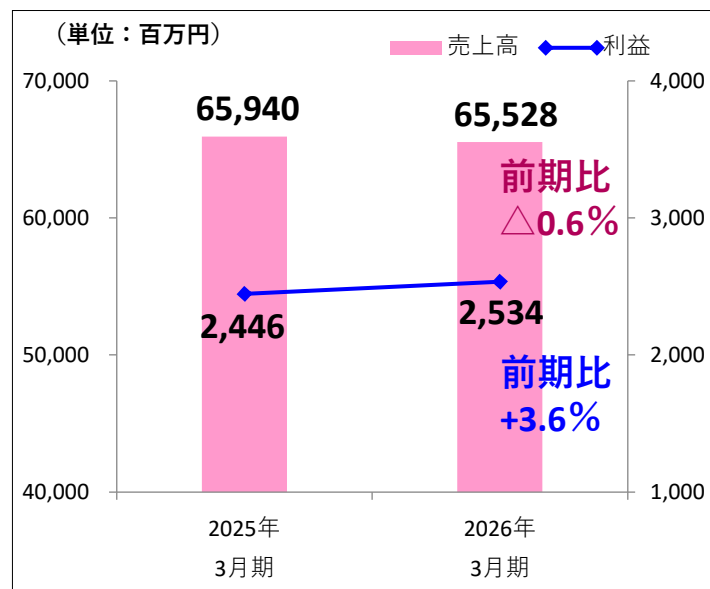
(缶詰)

- 主力のサバ缶のほかマグロ缶、サンマ缶の販売増加により、売上・利益とも増加

(おつまみ・珍味)

- 価格改定と原材料価格の上昇により、売上・利益とも減少

※「ご参考資料」に「食品事業の売上高内訳」を記載しております。  
 ※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。



	売上高	利益
業務用冷凍食品	➡	➡
市販用冷凍食品	⬇	⬇
缶詰	➡	➡
おつまみ・珍味	⬇	⬇

# セグメントの状況

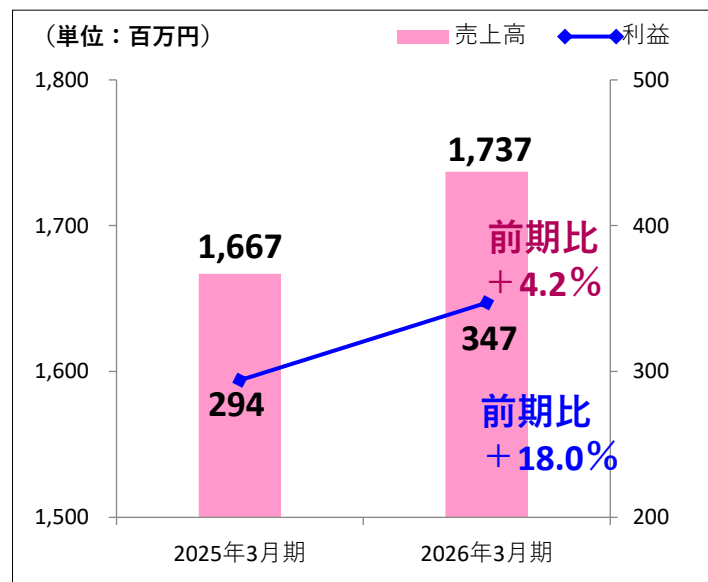
## 物流サービス 《増収増益》

(冷蔵倉庫事業)

- 入庫数量・荷動きの増加により売上が増加

(利用運送事業)

- 経費等コストを反映した価格改定を進め利益が改善



	売上高	利益
物流サービス	➔	➔

※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。

# セグメントの状況

## セグメント別業績予想

2027年3月期より、水産事業セグメントで取り扱っていた魚の切り身、フィーレ商品と、食品事業セグメントで取り扱っていた「だんどり上手」シリーズを主に取り扱う水産加工事業セグメントを新設いたします。

(単位：百万円)

	27年3月期通期業績予想	
	売上高	セグメント利益
水産	186,600	6,000
<b>27年3月期新設</b> 水産加工	28,500	1,000
生鮮	84,500	4,400
食品	63,000	2,300
物流サービス	1,800	350
その他	600	△2,050
合計	365,000	12,000

# 2027年3月期 セグメント別の施策

## 【水産事業】

- サプライヤーとの関係強化や出資を通じた調達力・資源アクセス強化による水産物の安定供給
- 「魚の極洋」として、情報力・提案力の強化による主要魚種の取扱規模拡大
- 現地法人各社と本社の連携強化による海外売上と利益の拡大

## 【水産加工事業】

- 水産事業の原料調達力、食品事業の販売力を活かし、顧客ニーズを先取りした商品提案による事業拡大
- 「だんどり上手」シリーズの魚の切り身の生産拡大

## 【生鮮事業】

- 原料調達から加工・販売までの一気通貫体制を活かした事業拡大
- 取引先の海外展開に合わせたグループ内の連携強化による、ニーズを的確に捉えた商品提案を通じた販売増加・事業拡大
- 短期養殖の検討やグループ全体の連携強化による事業安定化

# 2027年3月期 セグメント別の施策

## 【食品事業】

- ローコストオペレーションによる利益確保
- 中食・内食向けの商品開発・販売に注力

### <冷凍食品>

- 業務用：簡便性を備えた商品や新商品開発など自社工場製品の販売に注力
- 市販用：西日本エリアの基幹工場の生産能力を増強し、物流経費の削減などで競争力を高め、事業を拡大

### <常温食品>

- 魚肉ソーセージやツナパウチ商品の販売に注力

## 【物流サービス】

- 保管と配送のセットでの提案による売上拡大

## 5. 株主還元

# 株主還元

## 利益配分に関する 基本方針

株主に対する適切な利益還元を経営の重要な課題のひとつと位置付けており、企業体質の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実を図るとともに、安定配当を継続しつつも、中長期的な利益成長による配当水準の向上を目指します。

## 優待品

### ■ 対象株主及び優待の内容

- (1) 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上3単元（300株）未満所有の株主様には、2,500円相当の当社製品を贈呈
- (2) 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された3単元（300株）以上所有の株主様には、6,000円相当の当社製品を贈呈

■ 贈呈時期 : 毎年7月予定

## 配当の状況

	1株当たりの 配当金	配当性向	DOE
2022年3月期	90円	20.9%	2.3%
2023年3月期	100円 (普通配当90円) (記念配当10円)	18.5%	2.4%
2024年3月期	100円	18.2%	2.2%
2025年3月期	130円	22.9%	2.5%
2026年3月期 予定	150円	26.0%	2.5%
2027年3月期 予想	160円	26.4%	—

## ご参考資料

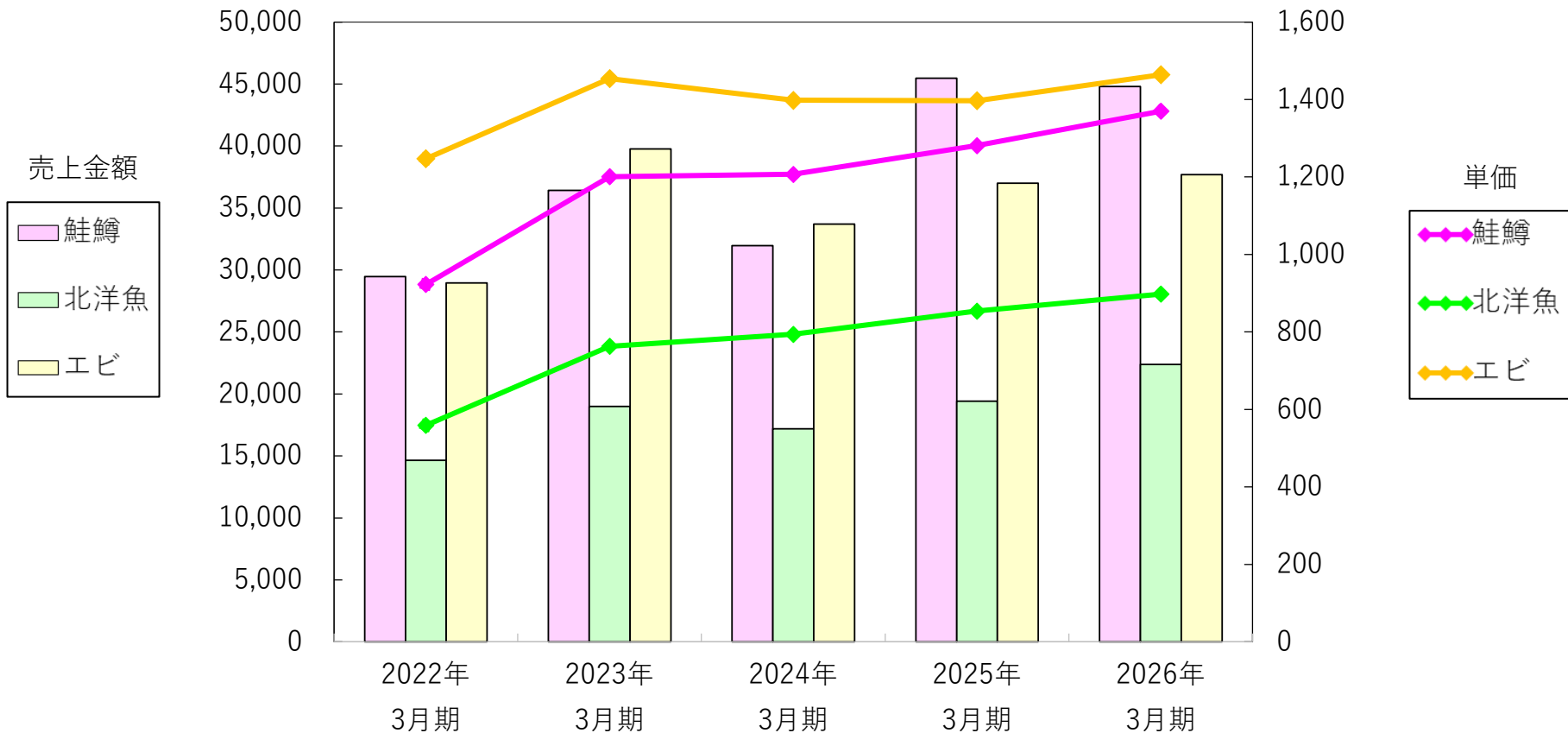
# ご参考資料①

## 水産事業セグメント ＜個別＞魚種別売上金額・単価推移

※単価＝通期平均

(単位：百万円)

(単位：円/kg)

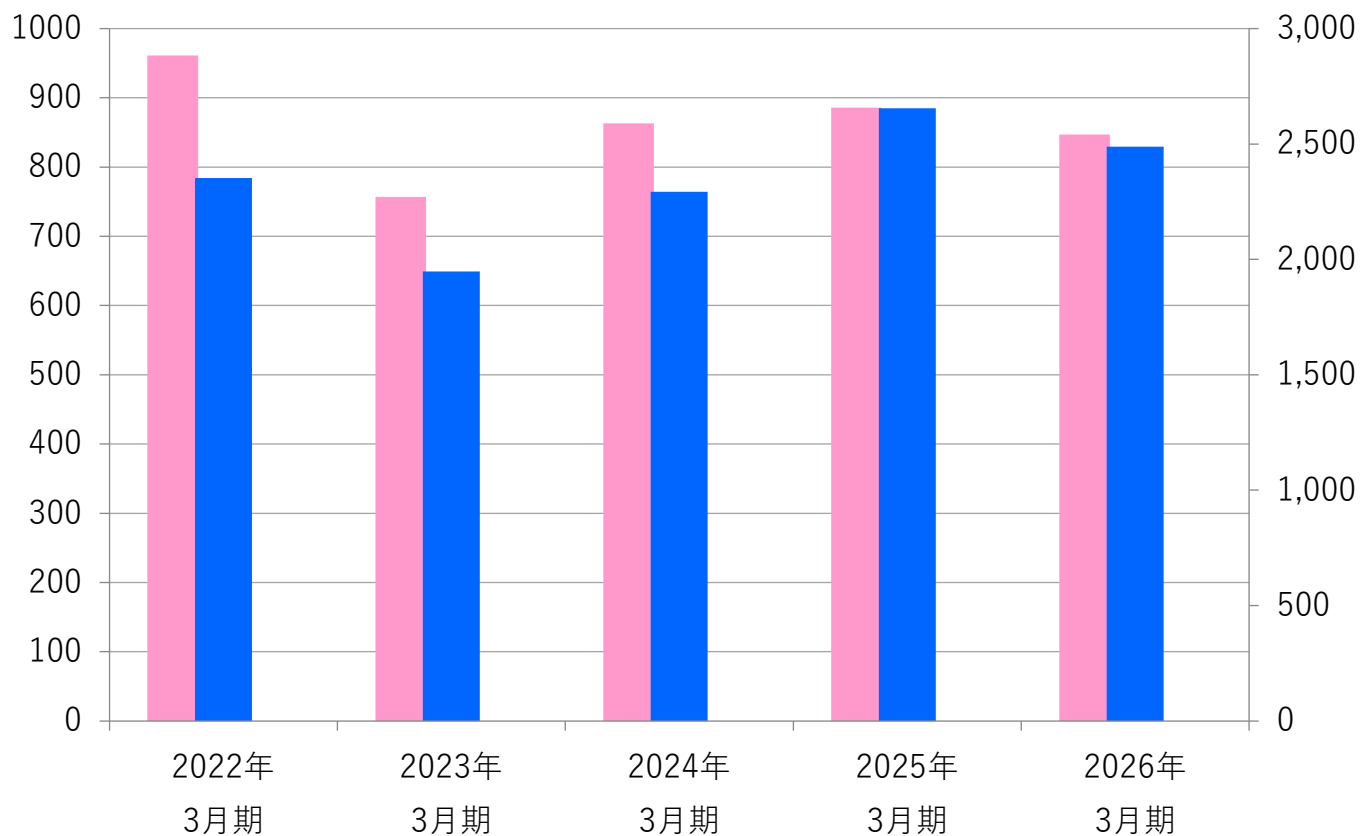


## ご参考資料②

### 生鮮事業セグメント クロマグロ養殖事業 売上重量・金額

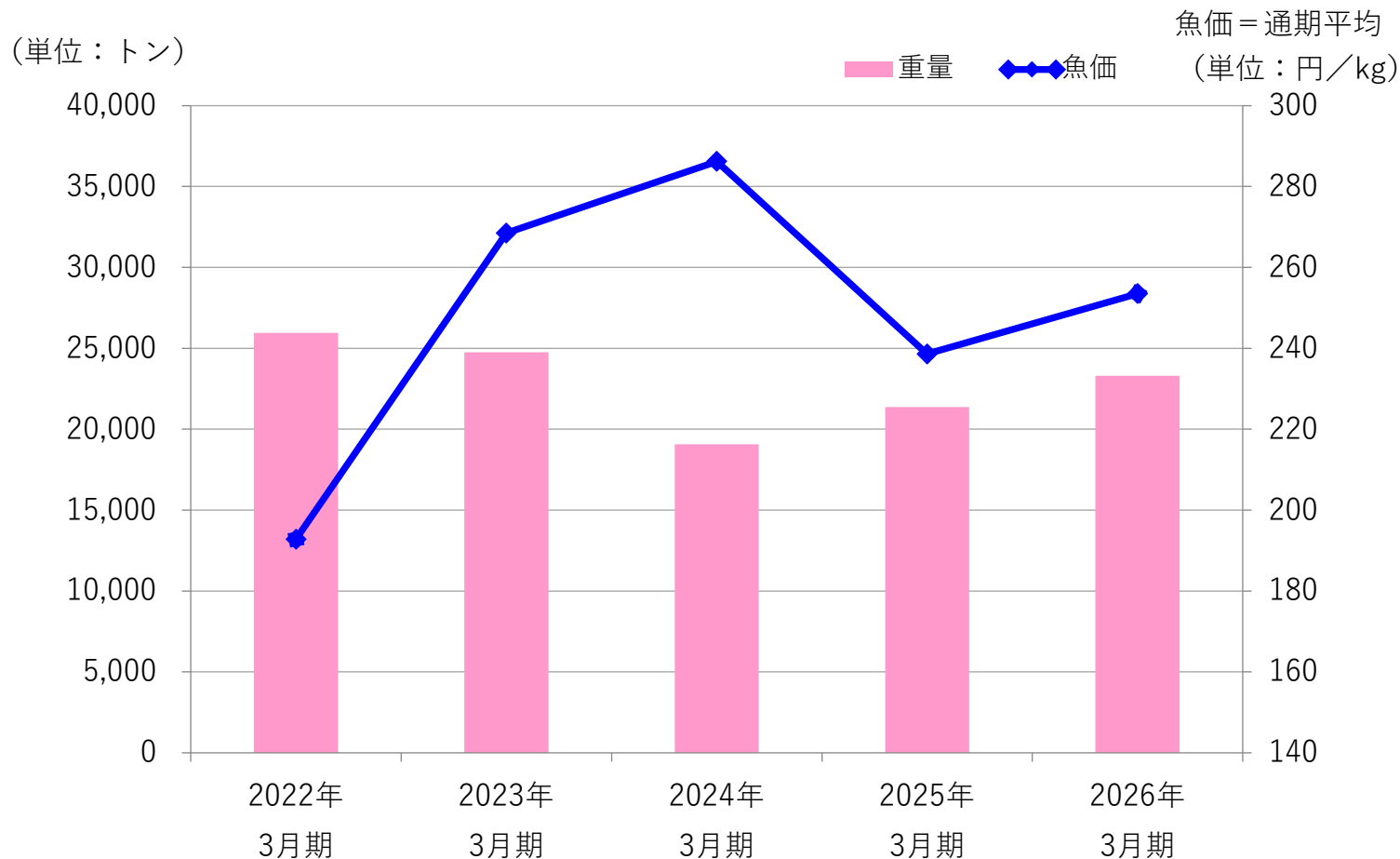
(単位：トン)

■重量 ■金額 (単位：百万円)



# ご参考資料③

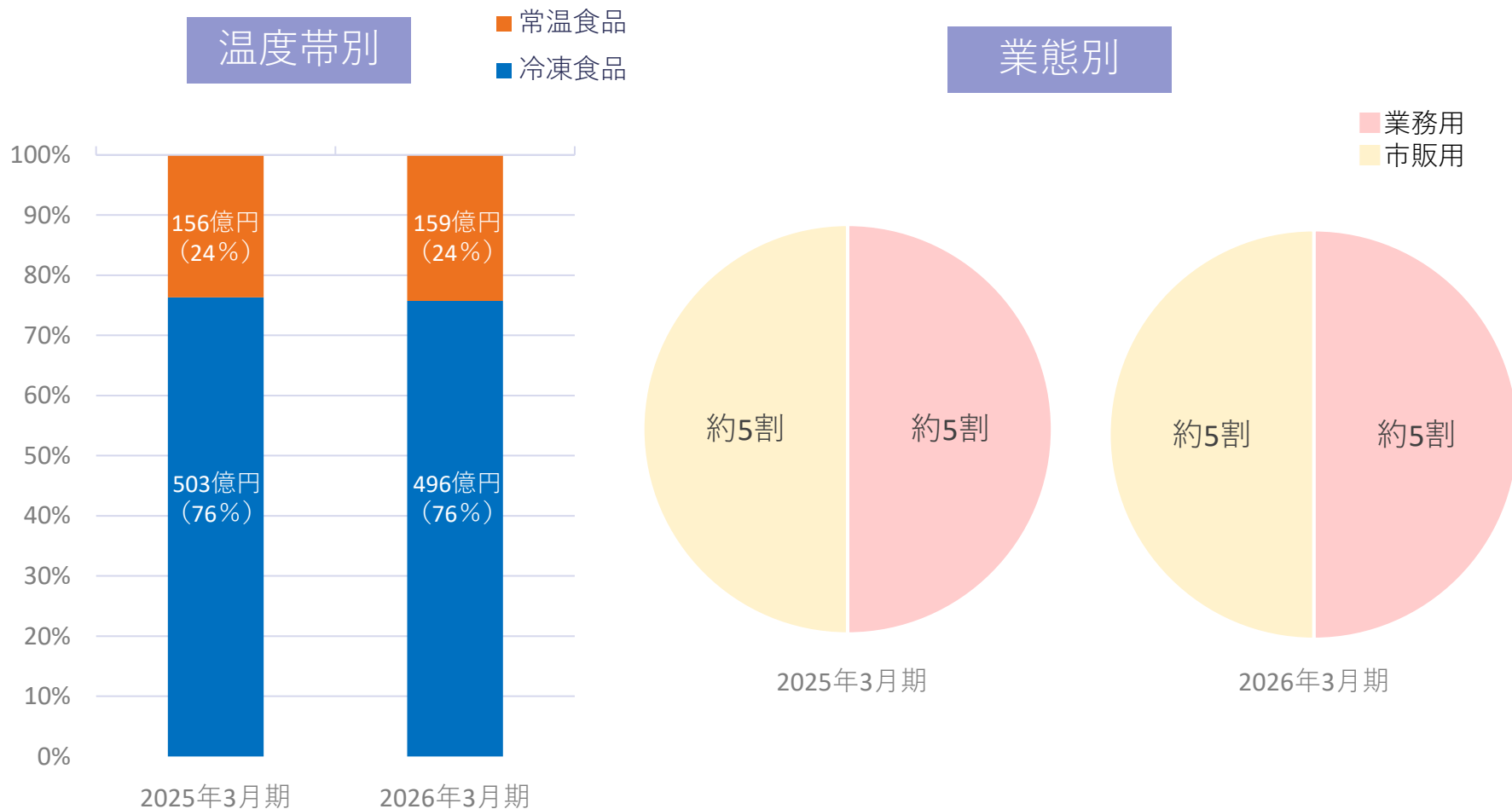
## 生鮮事業セグメント 海外まき網事業 水揚げ重量・魚価



# ご参考資料④

## 食品事業の売上高 2026年3月期（65,528百万円） 内訳

2025年3月期（65,940百万円）



## ESGトピックス

### ➤ 日本カヌー連盟への協賛

「自然との共生」および「水資源の大切さ」を社会に訴える環境保全活動の一環として日本代表選手や日本カヌー連盟の活動を応援、サポート。また、競技場へ来場された方々にご参加いただき競技コース付近の清掃活動「クリーンリバー活動」を実施。2025年度参加者は266名。



### ➤ キョクヨーグループ 統合報告書2025 発行【9月】

海外への積極的な生産・販売拠点展開などの事業戦略や、それを支える財務・人事戦略といった「変わりつつあるキョクヨーグループ」と、「魚のキョクヨー」としてのアイデンティティ、取引先との強固なネットワークと信頼関係、従業員が明るく楽しく一生懸命働ける職場環境などの「変わらないキョクヨーグループ」という2つの側面に着目し作成。



### ➤ 水産4社合同海岸クリーンアップ2025【11月】

「海洋プラスチック汚染」の問題解決に向けた取り組みの加速・拡大・周知を目的に水産会社4社（㈱極洋、マルハニチロ㈱、ニッスイ㈱、東洋冷蔵㈱）合同で、千葉県の海岸沿いのごみを収拾。各社の社員やその家族がボランティアとして参加。参加者数 4 社合計 182 名、収拾したごみ 17.5kg。



### ➤ 社員向け魚食量増加運動

国内では「魚離れ」と言われて久しい中、「極洋から魚食量増加の輪を広げていこう」との観点から「水産会社なら魚を食べ！」運動を2025年にスタート。社員に魚のお弁当を年間4回無料配布し、魚食の意識向上を図っている。



# ご参考資料⑥

## ➤ 連結業績推移

単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
売上高	253,575	272,167	261,604	302,681	334,612
売上原価	225,558	241,139	228,213	263,861	293,266
売上総利益	28,016	31,027	33,390	38,819	41,346
販売費および 一般管理費	21,624	22,921	24,584	27,740	30,614
営業利益	6,392	8,105	8,806	11,079	10,731
経常利益	6,904	8,182	8,856	10,857	10,031
特別利益	50	353	1,994	1,493	401
特別損失	229	132	2,295	1,502	392
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,634	5,782	5,936	6,740	6,841

# ご参考資料⑦

## ➤ 連結財務指標の推移

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
純資産 (百万円)	42,174	46,966	58,860	68,355	78,868
有利子負債 (百万円)	58,121	68,973	74,625	80,746	92,992
在庫回転日数	55.5日	65.5日	78.1日	68.8日	66.8日
自己資本比率	32.7%	32.5%	36.7%	36.5%	36.1%
ROE	11.2%	12.8%	11.1%	10.7%	9.5%
ROA	5.6%	5.9%	5.8%	6.3%	5.1%
1株当たり 純資産	3,969.73円	4,436.27円	4,965.39円	5,600.14円	6,511.31円
1株当たり 当期純利益	430.83円	539.10円	548.61円	567.48円	576.02円

- ROE：「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本\*」
  - ROA：「経常利益÷総資産\*」
  - 在庫回転日数：「商製品在庫高\*÷売上高×365」
  - 自己資本比率：「自己資本÷総資産」
- \*当期末と前期末の平均値としている。

# 見通しに関する注意事項

本資料は、2026年3月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としております。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

したがって、実際の業績は、様々な要因によりこれらの予想と異なることがありますのでご了承ください。

当資料に対する問い合わせ窓口

株式会社 極洋 管理本部 経営管理部 法務IR課 電話 03-5545-0806

本資料は株式会社 極洋が作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属します。複写及び無断転載はご遠慮ください。



国内販売

世界中から  
買付  
(サケマス、エビ、サバ等)

原料

販売

販売先

- ・加工業者
- ・食品メーカー
- ・卸売り市場
- ・問屋
- ・スーパー
- ・外食企業

加工

販売

販売先

- ・水産加工品  
(自社工場・協力工場)

- ・スーパー
- ・外食企業
- ・問屋
- ・産業給食
- ・中食ベンダー



海外事業

輸出

買付

(ホタテ、マグロ、サバ、イワシ等)

輸出

※三国間貿易含む

販売先 (海外)

- ・加工業者
- ・日系卸問屋
- ・外食企業

海外生産・  
販売

生産  
(自社工場、協力工場)

販売

販売地域

- ・東南アジア
- ・米国
- ・欧州 等

販売先

- ・日系卸問屋
- ・スーパー
- ・外食企業
- ・加工業者

- ・寿司種
- ・煮魚
- ・焼魚
- ・フィールレ 等



生鮮事業

鯉鮪事業

養殖事業

生食事業



カツオ

調達  
(自社船で漁獲、買付)

調達  
(買付、自社養殖)

マグロ



マダイ等



加工  
(自社工場、協力工場)

原料販売

販売先  
・卸売市場  
・加工業者  
・食品メーカー

加工品販売

- ・ブロック
- ・ロイン
- ・柵
- ・寿司種
- ・タタキ

販売先  
・回転寿司  
・外食企業  
・スーパー  
・中食ベンダー



加工  
(自社工場、協力工場)

- ・寿司種
- ・刺身商材

販売先  
・回転寿司  
・居酒屋／外食チェーン  
・スーパー  
・中食ベンダー



食品事業

水産素材に強み

冷凍食品



生産  
(自社工場、協力工場)

- ・煮魚
- ・焼魚
- ・カニ風味かまぼこ
- ・水産フライ
- ・エビフリッター



販売

業務用 販売先

- ・スーパー (惣菜売場)
- ・居酒屋
- ・レストラン
- ・産業給食
- ・中食ベンダー
- ・問屋

市販用 販売先

- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・食品/食材宅配企業
- ・ドラッグストア



缶詰

委託生産 (協力工場)

販売先

- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・ドラッグストア



ドライ  
水産珍味

(さきいか、あたりめ等)

生産 (自社工場)

販売先

- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・ドラッグストア



トラックでの運送業務は展開していません。  
キョクヨーグループの水産物・食品の保管・配送手配がメイン。

海外  
水産物サプライヤー



自社工場  
(水産加工品・冷凍食品)

外部顧客  
(冷凍水産品／畜肉、冷凍食品)

保管 (冷蔵倉庫)

配送手配

配送先



- ・スーパー、問屋の配送拠点
- ・各セグメントの商品販売先